

広報明誠

◆第85号◆ 平成20年3月1日
日本大学明誠高等学校後援会



主な内容

- 後援会活動を振り返って・・・会長・・・2
- 一年をふり返り・・・学校長・・・3
- 各学年主任から・・・4
- 秋季研修会報告・・・部会長・・・5
- 後援会活動報告・・・6
- 編集後記

昨年5月の後援会定期総会において会長に就任してから、10ヶ月が過ぎようとしています。この間の後援会事業は、役員・委員・会員の皆様のご理解とご協力により、円滑に行うことが出来ました。

それぞれの事業では、会員相互のコミュニケーションに重点を置き、活発で楽しい活動となりました。

ここで、1年間を振り返ってみたいと思います。

1・6月 文化祭(誠祭)

後援会役員、2学年委員が中心となり企画した「バザー」を開催しました。会員及び教職員の皆様のご協力により、大盛況の売り上げで2号館前にベンチを設置することが出来ました。また、生徒達の各クラスごとの模擬店や展示、コンサートは、工夫されていてすばらしく、保護者の皆様も子供達以上に盛り上がりました。中でも(焼き鳥、じゃがバター、アイスの天ぷら)は長蛇の列ができていて、親子一緒のほのぼのとした光景が目には焼き付いております。更に今年は、日本大学の各学部から先生方が来て下さり、説明会が行われ、多くの親子が説明ブースに並んでいました。医師不足の現状からか、医学部も列を作っていて、先生方の説明に熱心に耳を傾けていました。

2・9月 体育祭

体育祭へは、後援会会員は自由参加となっております。例年役員が5、6人と一般の方が10人前後ですが、今年は50人以上の保護者と地域の皆様が応援している姿を見て、嬉しく思いました。

3・10月 公開授業

授業中の様子を4日間自由に参観することが出来る学校の企画です。多くの保護者の参加があり、私も全クラスを見学させていただきました。教室内は40人前後のゆったりした空間で、どのクラスも先生方の説明に耳を傾け、真剣に授業に取り組んでいて安心しました。昼休みには学食で食事をしましたが、とても美味しく他の保護者からも好評でした。

4・10月強歩大会・トン汁作り

後援会役員、1学年委員が企画するイベントです。毎年飲食関係の保護者から指導を受けたり、前任の

方が残してくれた秘密のレシピで楽しみながら作るのが伝統となっています。特大鍋に作るトン汁は1000人分で、大鍋だからこそできる最高の味でした。また、コースには多くの保護者が応援に参加して下さい、中には自前のスポーツドリンクを配布するという暖かいお心遣いも見受けられ、皆様のご協力に感謝の気持ちを深める一日となりました。

5・卒業式 謝恩会

後援会役員、3年委員が企画する謝恩会です。現在当日に向けて準備を進めています。

今年度も八王子京王プラザホテルで行いますので、3年生の保護者の皆様の全員のご参加をお願い申し上げます。

「良き出会いが、人を創る」という言葉がございます。明誠高校での出会いを、親子共に大切にしてください。思い出の一日にしましょう。

最後になりましたが、教職員の皆様、役員、委員の皆様方には多大なるご尽力を頂きました。

また会員、OB、地域の皆様方のご理解やご支援を賜りましたことに深く感謝申し上げますと共に、今後の後援会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

明誠高校の情報サイトを知っていますか？

明誠高校の情報が即日更新でinter-eduサイトで閲覧できます。授業風景、クラブ活動、後援会活動を見ることができるので、是非一度クリックしてみてください。



昨年3月梅を見ながら校門の坂を上ってきてから、早いもので一年が経とうとしています。春が近いというのに雪をいだいた山から流れてくる風は肌をさすようでした。見るもの聞くものが真新しく、毎日がとても新鮮でした。接する人にみなよくしていただき、すぐ環境にとけ込ましていただいた。八王子に部屋を借り、大学生並みの生活が始まった。なにか開放された気分でした。通勤電車はすいており、横浜、東京と違いストレスを感じないのありがたい。土曜日になると行楽客に混じっての通勤となる。いつも乗る電車には本校の生徒が沢山乗り込んでくる。気持ちよい挨拶をしてくれる。慣れてきたところで、たまに150段の階段をのぼってだらだら坂をひたすら学校めざして歩く。学校に着くと汗びっしょり。ふりむくと幾重にも重なる山間に富士山の頂が見える。

4月の入学式から球技大会、あつという間に5月の連休。県の総体と行事に追いたてられる。各種大会が甲府を中心として行われ、生徒も引率の先生も大変だ。会議もほとんど甲府を中心としており遠足に出かけるようであった。慣れるにしたがい距離感がなくなってくる。不思議なものです。山は日ごとに緑濃くなってくる。6月半ばに芸術鑑賞教室での歌舞伎鑑賞あとにすぐ文化祭。今年から日本大学の各学部にお問い合わせをして学部紹介を実施する。当日多くの保護者、生徒が参加してくれ、大学側も関心のたかさに驚いておられた。そしてぜひ学部のほうに見学にくるようにと話してくれた。一年生も多く参加し早期動機付けになったことと思います。後援会の方々のバザーには人だかりがし、早い時間で品物が底をつく盛況であった。近隣の方も楽しみにしてくれ地域との交流ができたのではないかと。生徒のいきいきとした姿にお客さんもすいこまれていた。次年度も伝統の壁画をはじめとして良いものが発表できればと期待しています。

各クラブが各種大会で頑張ってくれた。あとひとつというところで大きなものを逃している。地味な努力、練習がきっと近い将来実を結ぶでしょう。全校応援ができるよう各クラブにお願いしたい。夏休みに入り軽井沢での合宿セミナー。びっしり授業が組まれよく生徒も取り組んでいた。高校受験生対象の体験学習は、二回実施するほどの希望者があった。先生方も夏休みを利用して研修に一齐に参加。山梨学院大学にて私学教育の講演を聞き幾つかの分科会にて研修。次年

度は本校が当番校になる。夏休みあけてすぐ体育祭。元気の良い声が飛び交う一日でした。三年生には、一つひとつの行事が最後となりそれだけ熱がはいるようであった。三年生にとっては進路がとても気になる時期となりましたが、9月終わりに大学進学第一号が出てくる。幸しいかなとつい皮算用。高校入試の方もあわせて先生方に中学、塾に本校のピーアールにでかけてもらう。本校の説明会にいくつかのクラブに協力願ひ演奏、演技で出迎え。なかなか好評だった。インターネットでの学校紹介も多くの人に見ていただき、更新を楽しみにしてくれる人がでてきた。ネットの時代ですね。本館横に事務の方の提案で庭園が作られることになった。後援会の会長さんがすぐ話しにのってくださり、後援会の方から樹齢50年を超える木を寄贈してもらい、さらにテーブル、イスになるように切ってもらい運びこんでくれる。配置が決まると入り口部分は竹の柵がいいとか、石を敷き詰めるといいとか外野は言いたい放題。本校の庭師の方や用務の方が器用に作り上げていく。せっかくだから生徒はじめ多くの人に庭園に名前をつけてもらおうということになる。完成が待ちどろしい。

よりよい授業を目指し先生方が互いに授業を参観しあっている。そして研究授業を実施し研鑽しています。公開授業は、一般に公開するだけでなく先生方の研修の機会でもあります。次年度も継続していきますので、後援会の皆様ぜひ参観し先生方を激励してください。10月の後援会主催の研修会には本校の校医の武者吉英先生に講演をしていただいた。生活習慣病について、興味あるお話をしていただいた。自覚をうながされました。その翌週には上野原もみじホールにて公開講座。学祖山田顕義先生について本部から高橋秀典先生、二部講演はノンフィクション作家川田文子先生が講演して下さり生徒も熱心に聞きいていた。盛りだくさんの10月でした。日本大学の統一テスト後、二年生の修学旅行。暖かいシドニーで充実した海外旅行でした。現地の方から本校生徒のマナーの良さを指摘されました。出る所に出ればきちんと行動してくれるのが嬉しい。日本に戻ると紅葉の山が我々を待っていた。寒さが一段と身にしみてくる。富士山もすっかり雪化粧。四季おりおりの姿を楽しみながら一年を終えようとしている。卒業生の皆様のご活躍を祈念しております。

自分の意志で

1学年主任 大桃 淳

先日のLHRで「自分を知るための50のチェックリスト」を実施しました。これは、50項目にわたる行動について自分が実践できているかを確認することで、自分自身の姿を見つめ直し、そしてあるべき自分の姿をもう一度考えてもらうためのものでした。

チェックリストで取り上げた項目は、「いつも大きな声で挨拶をする」「授業の準備は休み時間にしている」「人が傷つくことは言わないようにしている」など、本来ならば、高校生が自然に意識すると思われる項目でした。

日本大学自己点検の一環として行われた「生徒による学校評価アンケート」の中で分かったのですが、現在の1年生は、ノート作りや宿題などの指示されたことは出来ても、家庭学習など、自分の意志で行うことが苦手であると分かりました。

予習復習などの家庭学習を「自分の意志で行っていくこと」は、学力向上には不可欠です。その点を一人一人の生徒が実践できるようにしていくことが、生徒自身の課題であり、私たち教師の課題でもあります。

高校時代を人生の中で捉えると、学習活動だけでなく人として大きく成長する大切な時期です。そのように考えるとき、生徒自身が自分のあるべき姿を「自分の意志で想像すること」はとても大切です。

今回のチェックリストが呼び水となり、生徒一人一人が自分のあるべき姿を描きながら、その実現に向けて歩んでくれることを願っています。

光陰矢の如し

2学年主任 手塚 秀昭

花びらを落とした桜の木が、月日の経過と共に満開のその姿を、再び見せてくれるような季節の到来である。あつという間の1年間であった。生徒にとっても保護者にとっても…。

1年生の時と違い、学校生活にも慣れ、どの生徒も充実感を漂わせている。特に将来の進路先決定の切迫感が今のところはなく、高校生活の中で一番の輝きを見せている時期でもある。

1学期を順調に終了し、2学期には学年として高校生活最大の行事「修学旅行」があった。その時の記憶が今でも鮮明に頭に残っている。数回にわたるガイダンス。自分たちで知恵をしばりあっての事前研究やしおり作成。結団式を経て、万全の準備でいよいよ出発の途に…。緊張感を持ちながらも、未知の経験に胸を躍らせ笑みの絶えない出発ロビーの生徒たち。約11時間のフライトの後、オーストラリアに到着。日本と違い、これから夏を迎えようとしている眩いばかりの空。青と白の見事なコントラストを描く海岸線、どれをとっても感激する。初日はファームステイで、大地を実感。シドニーに滞在中、英語を駆使して積極的に外国人との会話を楽しみ、その他ショッピングや観光にと、それぞれの時間を大いに満喫した。そんな生徒たちの姿を見ると「海外修学旅行」の教育的効果をつくづく実感できた。一人ひとりの生徒にとって、団体行動で協調性を学び「互い」を知ることができた絶好の機会でもあったと考える。

新年度を間近に控え、何かと行事が多いこの時期。3年生に向けての選択科目の決定や、実力テストによる志望大学への合格率データを参考に、いよいよ本格的な進路指導に入る。今年度は在校生として出席する卒業式に、1年後は「進路決定者」として参列できるよう、日々の努力を怠らずに頑張ってもらいたい。「時間は有限である」。

一年を振り返って

3学年主任 水野 正実

4月、いよいよ最終学年である。何とかして生徒全員の希望進路を叶えてやろうと学年スタッフ一同、気持ちも新たに目標を再確認した。日大標準学力テストの結果が戻り一喜一憂する中で、日本大学入学者を想定したりもした。(少なかった)

5月、6月、7月と時は矢の様に過ぎ去り、統一テスト対策ゼミの実施される中、大盛況のうちに文化祭も終了し、三者面談の後夏休みを迎えた。今年度の合宿ゼミは5泊6日と長い日程であったが、参加した生徒は先生方の指導のもとで皆熱心に取り組み、昨年以上の好結果が得られた。

9月の体育祭は台風で延期されたものの、高校生活最後ということで盛り上がりを見せ、三年生の活躍が特に目立っていた。1学期期末考査が終わると、日本大学特別推薦と他大学の指定校推薦の枠が発表され10月1日～3日まで選抜のための三者面談が行われた。

11月、日大付属統一テストが実施された。多くの生徒が既に特別推薦や指定校推薦で進路が決定していたが、全先生、特に担任の先生方の指導の成果が顕れ12月の本部調整では好結果を得ることができた。

今年度は某学部で推薦枠を大幅に減らしてくる中、昨年度の日大進学率に追いつくことが出来たのは、学年の先生方の1年生の頃からの団結心と保護者の方々のご理解があったからこそだと思っています。感謝の意を表し報告とさせていただきます。

毎年、私達の身近な話題、参考になるお話を著名な方々にお願いしていますが、今年度は10月20日土曜日に、日本大学明誠高校産業医でもあり、山梨県産婦人科医会会長である「武者 吉英先生」をお招きし、「生活習慣病と喫煙について」というテーマでご講話頂きました。



近年、日本人の食生活の激変により中高年の人だけでは無く、若い人達の成人病が増えている。

コンビニ等の弁当など、味の「濃い」もの、「脂っこい」ものを食べ続けることは糖尿病や高血圧症の予備軍をつくることになってしまう。また、子供達も食事に無関心になっていて大人になってからの病気予備軍になってしまうのではないかと心配している。

肥満症や高血圧、高脂血症、糖尿病などの生活習慣病は、それぞれが独立した別の病気ではなく、肥満、特に内臓に脂肪が蓄積した肥満が原因であり、内臓脂肪型肥満によって、さまざまな病気が引き起こされやすくなった状態を『メタボリック・シンドローム』という。具体的には、内臓脂肪の蓄積はウエスト径で判定し、男性85cm以上、女性90cm以上を基準値としています。加えて、高脂血症、高血圧、糖尿病の3つに診断基準が設けられ、それらの項目の内2つ以上該当するとメタボリック・シンドロームと診断されます。三度の食事をきちんと取ることが健康への第一歩である。

更に喫煙による健康影響について講話頂きました。

喫煙については、タバコを吸う人と吸わない人の肺の写真、ニコチンの溜まった真っ黒な肺を見比べて、禁煙が如何に害が有るか。

喫煙する40、50代を追跡調査した結果、吸わない同年代に比べ、ガンや循環器疾患による死亡率が男性で1.6倍、女性で1.9倍高かった。

40、50代に対して行った調査では、たばこを

止めたヒトの死亡率は、女性の循環器疾患を除き、もともと吸わない人と同程度であることも分かり、〈禁煙〉の有効性が示された。

禁煙することに「遅すぎる」ということはなく、禁煙すれば時間はかかるかもしれないが吸う前の肺に近づくことができるので、今日、いまからでも始めれば体にも、周りの吸わない人にも良い。

禁煙パッチも有効に使えば、いくらかは楽に禁煙ができるのではないか。「ニコチン依存症のための保険が利くので病院に相談すると良い。」という、我々に非常に身近なお話を聞くことが出来、最後の質疑でもわかりやすいご説明を頂き有意義な講演会でした。



平成19年度 後援会活動報告

- 平成19年5月
- ・後援会定期総会
 - ・第1回役員会
- 6月
- ・県・高生連定期総会・研修会
 - ・第2回役員会
 - ・第1回委員総会、学年別委員会
 - ・文化祭「誠祭バザー」への協力
 - ・「広報明誠」発行第83号
 - ・誠祭バザー・お茶処 準備
 - ・誠祭バザー・お茶処 実施
- 7月
- ・郡内東部地区高生連研修会
- 9月
- ・祭典パトロール
 - ・第3回役員会
 - ・体育祭
- 10月
- ・強歩大会支援(トン汁 準備)
 - ・強歩大会支援(トン汁 実施)
 - ・県私学研修会(私学の集い) (山梨学院大学)
 - ・後援会秋季研修会
 - ・県・高生連中央集会・研修会
- 12月
- ・「広報明誠」発行第84号
 - ・第4回役員会
 - ・第2回委員総会・学年別委員会
- 平成20年1月
- ・賀詞交換会 (京王プラザホテル)
- 3月
- ・卒業式・卒業謝恩会 (京王プラザホテル)
 - ・「広報明誠」発行第85号
- 4月
- ・第5回役員会 (予定)
- 5月
- ・後援会定期総会 (予定)



バザー収益金で購入したベンチ

～編集後記～

平成19年度「広報明誠」も無事最終号の発行となりました。お忙しいなか原稿をお寄せ下さった先生方・委員の皆様ありがとうございました。部員一同心より御礼申し上げます。

御意見・御要望等ありましたらお知らせ下さい。今後の参考にさせていただきます。

なお、広報は学校のホームページでも、御覧いただけます。